



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	AGC横浜テクノカルセンターバイオ医薬品開発・製造拠点建設工事	階数	地上4F
建設地	横浜市横浜市鶴見区弁天町2	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	148 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,160 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2024年7月20日
敷地面積	19,459 m ²	作成者	大成建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	6,083 m ²	確認日	2024年7月20日
延床面積	18,670 m ²	確認者	毛塚 順次



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
医薬品の開発・製造を行う工場である。 複数の医薬品製造ラインを明確に分け、中央に設けた吹抜けから各ラインの動線見直しを行っている。 合理的な運用の為、開発・品質・物流・資材管理までを行う拠点の計画としている。		
Q1 室内環境 ・高遮音性能アルミカーテンウォールを採用している。 ・最良な外気を取り入れることができるよう十分な配慮をしている。	Q2 サービス性能 ・十分な天井高を確保している。 ・免震構造により、揺れを抑え建物機能維持することができる。 ・非常用発電機等を備え、高いBCP性能を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) ・建物利用者の声を設計計画に反映している。 ・カーテンウォールに横浜市で製造されたガラスを使用している。
LR1 エネルギー ・設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・躯体と非構造体にリサイクル材を使用している。 ・GWPの低い断熱材を採用している。	LR3 敷地外環境 ・廃棄物処理負荷の抑制に配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

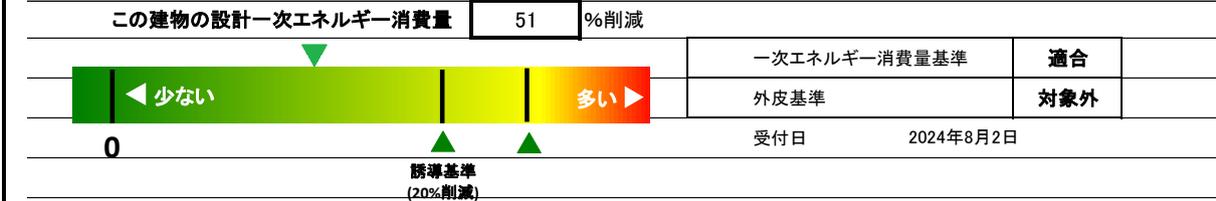


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 AGC横浜テクニカルセンターパイオ医薬品開発・製造拠点建設工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ③BEIm:0.49
- ④消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性を確認できるよう計画している

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑩高度な昼光利用設備を有する
 - ⑪ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用
- 機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)
- ⑫維持管理に配慮した設計を行っている

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑮建築基準法の1.5倍の耐震性を保有
- ⑯耐用年数の長い外装材を採用
- ⑰無停電装置などの信頼性の高い電気設備を採用

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **4**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

- ⑱植栽に地域の自生種を採用
- ⑲景観に配慮した外観デザインを採用
- ⑳地域性のある材料の使用

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
太陽光利用	
エネルギーマネジメントシステム導入	
BEMS	



CASBEE横浜2022年版v.1.2

AGC横浜テクニカルセンターバイオ医薬品開発・製造拠点建設工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.2

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境										3.5
1 音環境				3.0	0.15	-	-	-	-	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	-	-	-
1	開口部遮音性能			5.0	0.60	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能			3.0	0.40	-	-	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-	-	-	-
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.6	0.50	-	-	-	-	-
1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.38	-	-	-	-	-
2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-	-	-	-
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.8	0.38	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	2.0	0.30	-	-	-	-	-
3 光・視環境				3.9	0.25	-	-	-	-	3.9
3.1 屋光利用				4.3	0.30	-	-	-	-	-
1	屋光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	4.1	0.60	-	-	-	-	-
2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	-	-	-
3	屋光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	4.6	0.40	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	-	-	-
1	屋光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	-	-	-	-	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.15	-	-	-	-	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.6	0.25	-	-	-	-	-
4 空気質環境				3.9	0.25	-	-	-	-	3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	-	-	-
1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	-	-	-	-	-
4.2 換気				3.9	0.30	-	-	-	-	-
1	換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.33	-	-	-	-	-
2	自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.8	0.33	-	-	-	-	-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	-	-	-
1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	-	-	3.7
1 機能性				3.2	0.40	-	-	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40	-	-	-	-	-
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.33	-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.33	-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.7	0.30	-	-	-	-	-
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.1	0.33	-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.33	-	-	-	-	-
3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	1.0	-	-	-	-
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.50	-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				4.4	0.30	-	-	-	-	4.4
2.1 耐震・免震				5.0	0.50	-	-	-	-	-
1	耐震性	防災	⑬耐震・免震	5.0	0.80	-	-	-	-	-
2	免震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	5.0	0.20	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.4 信頼性				4.0	0.20	-	-	-	-	-
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-	-	-
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-	-	-
3	電気設備	防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	-	-	-
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	-	-	-
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-	-	-
3 対応性・更新性				3.7	0.30	-	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-	-	-
1	階高のゆとり			5.0	0.60	-	-	-	-	-
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-	-	-



CASBEE横浜2022年版v.1.2

AGC横浜テクニカルセンターバイオ医薬品開発・製造拠点建設工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.2

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅> <集合住宅>		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-			
Q3	室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	4.2		
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑧生物環境の保全と創出	4.0	0.30	-	-	4.0		
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	5.0	0.40	-	-	5.0		
3	地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5		
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑩地域性への配慮	4.0	0.50	-	-			
3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	④敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			
LR	建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0		
LR1	エネルギー			-	0.40	-	-	4.3		
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	-	-	-	-			
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.13	-	-	3.0		
3	設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	5.0	0.63	-	-	5.0		
4	効率的運用			3.5	0.25	-	-	3.5		
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-			
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	4.0	0.50	-	-			
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			
	集合住宅の評価			-	-	-	-			
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			
LR2	資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.2		
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4		
1.1	節水			4.0	0.40	-	-			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			
2	非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5		
2.1	材料使用量の削減			5.0	0.11	-	-			
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-			
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-			
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3		
3.1	有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-			
3.2	フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-			
1	消火剤			4.0	0.33	-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			5.0	0.33	-	-			
3	冷媒			3.0	0.33	-	-			
LR3	敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4		
1	地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9		
2	地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1		
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-			
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-			
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-			
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-			
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-			
3	交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-			
4	廃棄物処理負荷抑制			5.0	0.25	-	-			
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2		
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
1	騒音			3.0	0.50	-	-			
2	振動			3.0	0.50	-	-			
3	悪臭			-	-	-	-			
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-			
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-			
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-			
3.3	光害の抑制			4.0	0.20	-	-			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			4.0	0.30	-	-			
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
	知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-			
<住宅用途>										
健康と安心										
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			
2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			
3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-			